

図書館だより

NO. 144 2010年 3月号
(2010年3月1日発行)

はつかいち市民図書館
電話(0829)20-0333
廿日市市下平良1-11-1

ホームページ <http://www.hiroshima-hatsukaichi-lib.jp/>

パパとたのしむ



おはなし会

子育て真っ最中の“パパ”ボランティアさんに絵本を読んでもらう「おはなし会」です。
いつもとはひと味違うおはなし会に参加してみませんか？

日時：平成22年3月13日（土）11：00～11：30

場所：図書館内会議室

対象：幼児からおとなまで

<今月の展示>

<さくらびあ展示> 『狂言を楽しむ』

3月11日（木）にさくらびあで開催される「茂山狂言」にちなんで、狂言に関する本を展示します。

<中央展示> 『ノンフィクションの本』（児童書）

『子どもと楽しむ科学の絵本850』『かがくする心の絵本100』『子どもの本～この1年を振り返って』を参考にして、「環境」「人権」「文化」「昆虫」「科学」などをテーマにしたノンフィクションの子ども向けの本を集めて展示しています。

<児童展示> 『おひさま ぼかぼか』

おひさまがぼかぼかしてきたら、春がやって来る予感！冬の間は会えなかった虫たちが動き始め、草や花は芽吹き、春はもうすぐそこです。今月は春を感じる本を集めました。

<テーマ展示> 『立松和平氏の冥福を祈って』

2月8日に永眠された、立松和平氏の著書を集めて展示します。

ヤングアダルト新着情報

『クローバー』

中西翠／著 講談社 913／ナ

四つ葉のクローバーを100枚集めると、幸せになれる。中学一年生の好葉（このは）は自分が見つけた四つ葉のクローバーを、学校の図書室にある誰も読まなさそうな本の中に隠して集めていた。ある日、好葉は自分が以前にクローバーを隠した本の中に、誰かが同じようにクローバーを挟んでいることに気づく。ひそかに「クローバーの君」と呼んで、想いをつのらせる好葉。クローバーの君の正体は親友・美咲の好きな人「直人」だった。四つ葉のクローバーが繋ぐ、初恋と友情の物語。

『15歳の日本語上達法』

金田一秀穂／著 講談社 810／キ

「お刺身」と「死んだ魚」。同じものを指した言葉ですが、感じ方は随分違います。祖父・父を言語学者に持ちながらも学校嫌いだった著者は、唯一のよりどころだった読んだり書いたりする中から、いつの間にか「日本語」の世界に迷い込みます。言葉の不思議・おもしろさ・怖さを知った著者は、人間にとって大切なのは、漢字を記憶するような「国語力」ではなく、言葉の意味を把握する「日本語力」だと身をもって経験しました。そんな著者が、日本語の上達の秘訣を分かりやすく教えてくれます。

郷土資料紹介

景教の研究

佐伯好郎／著

H198.1／サ 名著普及会 1980年

キリスト教の一派、ネストリウス派（景教）の研究書である本書は、廿日市出身の学者「佐伯好郎」によって発行された。

佐伯好郎は、明治四年（1871）に旧廿日市町に生まれた。アメリカ・カナダ・イギリスに渡って英語や古典語の修得に専念し、帰国後は東京高等師範学校などで、教育者として活躍した。

「佐伯好郎遺稿並伝」では、佐伯好郎の教え子たちが、氏の偉業を称えている。本書から、「景教の研究」は、国際的にも高く評価されていたことがわかる。

その後の佐伯好郎は、昭和十九年に疎開した郷里廿日市町で、教育文化の発展に尽くした。昭和二十二年には廿日市町長に就任し学者町長ととして、その名を知られた。景教と廿日市が、このような形でつながっていたことを知る手がかりになる本書が存在することを覚えてほしい。

廿日市市に關係する資料は、一番奥の「N」の棚にあります。ラベルに「H」という記号がついています。

<今月の新着(一般書)>

図書館には1カ月に約600冊の新刊が入ります。その一部を紹介します。

- 『歎異抄の謎』 五木寛之／著 祥伝社 S188.7/シ
- 『日本史有名人の臨終図鑑』 篠田達明／著 新人物往来社 281.0/シ
- 『清水次郎長』 高橋敏／著 岩波書店 S289.1/シ
- 『ビジネス法務の部屋』 山口利昭／著 大阪弁護士協同組合 335/ヤ
- 『もっと子どもとうまくいく！働くお母さんの習慣術』 たけながかずこ／著 PHP研究所 366.3/タ
- 『定年後のリアル』 勢古浩爾／著 草思社 367.7/セ
- 『つながる脳』 藤井直敬／著 NTT出版 491.3/フ
- 『こんにゃくレシピ』 小菅陽子／著 小学館 596.3/コ
- 『まだまだ伸びる農産物直売所』 田中満／著 農山漁村文化協会 611.4/タ
- 『政治の美学 権力と表象』 田中純／著 東京大学出版会 701.1/タ
- 『まるごと三味線の本』 田中悠美子ほか／編 青弓社 768.1/マ
- 『故郷のわが家』 村田喜代子／著 新潮社 F/ム
- 『海猫ツリーハウス』 木村友祐／著 集英社 F/キ
- 『99通のラブレター』 吉野万理子／著 PHP研究所 F/コ

新刊

ことものほん

『世界にはばたく日本力 日本の食』

編さん/ことくらぶ ほるぷ出版 596/㌧

和食に西洋料理の技術や要素を合わせた独創的な料理を作る日本の料理人。伝統的なアメ細工の技術を駆使して、国際コンクールで優勝した日本人パティシエ。世界で活躍する背景には、独自に発展した「日本力」があった。そして今や宇宙食や非常食として世界中に広まるカップめんも日本で生まれた！

『わたしの病院、犬がくるの』

大塚敦子 【写真・文】 岩崎書店 E/㌧

「わたしの病院、犬がくるの。」入院してつらいことがたくさんあるけど、楽しいこともたくさんあるよ。重い病気で聖路加病院の小児病棟に入院している子どもたち。犬がくる日をみんなとても楽しみにしています。つらい治療を続けることもたちの笑顔に出会える白黒の写真絵本です。

『クローズアップ大図鑑』

イゴール・ジヴァノヴィッツ著 ポプラ社 480/㌧

見すごしてしまいそうな小さな生き物をカメラを通してみると、別世界からきた異星人のように見えます。本書はそれらの生き物の世界をズームアップして、顔の特徴や生態を詳しく解説した図鑑です。分布、一生の長さや絶滅危険度のデータも掲載。

『ゴハおじさんのゆかいなお話』

デニス・ジヨリツァー・イグニス 再話 107-116 ペイ・モリメット・ファクトフとハニ・エル・サイド・アラド 絵 千葉茂樹訳 徳間書店 929/㌧

市場でロバを12頭買ったゴハおじさん。1頭のロバにまたがり数を確認めると11頭しかいません。ロバから降りてもう一度数えると12頭います。おじさんの頭はこんがらがって…。時にまぬけ、時に賢いゴハおじさんはエジプトの人々に愛され続けています。笑い話など15話を収録し、ユーモラスな挿し絵はエジプト職人による布製原画。

『野生動物のお医者さん―世の中への扉―』 齊藤慶輔 講談社 488/㌧

『江戸のなぞ絵①いろは・江戸名所ほか』(②虫・動物ほか、③野菜・勝手道具ほか) 岩崎均史著 汐文社 721/㌧

『ぞうのはなはなぜながい』 ラドヤード・キプリング原作 寺村輝夫文 長新太絵 596/㌧

ミニブックトーク

可能か・不可能か

日々の生活の中で遭遇する初めての出来事、人生に立ちはだかる壁。あなたはそのようなことに出会った経験はありますか。

地獄に落ちた大どろぼうの【かん】陀多は生きていた時にたった1つ、蜘蛛を助けるというよい行いをしました。そこでお釈迦さまは蜘蛛の糸を地獄へおろして救おうとします。【かん】陀多は喜び勇んで蜘蛛の糸を昇りますが、振り返るとたくさんの罪人たちが蜘蛛の糸に群がり、昇ってくるではありませんか。この芥川龍之介の『蜘蛛の糸』では、たくさんの人間が蜘蛛の糸に昇っていますが、実際には可能なのでしょうか？

『蜘蛛の糸』を読んで“人がクモの糸にぶら下がること”を実現したい！と夢見た人がいました。強く長い上等なクモの糸を採取するには、クモの習性や糸の性質を理解しなければなりません。『クモの糸の秘密』の作者・大崎茂芳さんは、クモとじっくりと付き合い、クモが気分よく上等な糸を出せるようにさまざまな配慮をします。クモの糸採取器の発明、TV番組での失敗、クモを襲う鳥との知恵比べ等、多くの困難を乗り越えて、30年来の夢の実現へと近づいていく様子が、大崎さんの熱意とともに身近に感じられます。

新しいことにチャレンジする時、それが何年かかるのか結果がどうなるのかは誰にもわかりません。無理だと思われていた完全無農薬・無肥料でのりんご栽培を始めた青森県のおりんご農家・木村秋則さんの実話を絵本化した『りんごのおじさん』は、自分の信じる道を進むことの意義を教えてください。

『杜子春 くもの糸』 芥川龍之介/著 偕成社 913/㌧、『蜘蛛の糸』 芥川龍之介*作 遠山繁年*絵 偕成社 E/㌧

『クモの糸の秘密』 大崎茂芳/著 岩波書店 485/㌧(参考:一般書『クモの糸のミステリー』 大崎茂芳/著 中央公論新社 S485.7/㌧)

『りんごのおじさん』 竹下文子/文 鈴木まもる/絵 ハッピーオウル社 E/㌧

(参考:一般書『奇跡のりんご』 石川拓治/著 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」制作班/監修 幻冬舎 625.2/㌧)

～図書館意見箱から～

子どもたちが利用しやすい図書館とは？



2月から図書館入口横に、「図書館意見箱」を設置しました。いただいたご意見の中からご紹介いたします。

「子どもにとって利用しやすい図書館になってほしい。子どもたちにとって「絵本」は宝。しずかにしなさい、だまってと言っても、まだ字も読めない子にとっては無理なこと。絵本コーナーをおはなし会などがある部屋の前や、奥に移動させるとか工夫をしてほしい。とても困っています。」

「さきほど子どもといっしょに利用しました。職員さんの対応に疑問をもちます。子どもから目を離さないでとのことでしたが、たった少しの間でした。多少は長い目で見てもらえないと子どもとは来れない場になります。」

図書館は、さまざまな年齢の人が利用する公共施設です。幼いころから、たくさんの本に触れて育てほしいという願いから、図書館にはたくさんの子どものための本があります。楽しくなって、つい大きな声が出てしまったり、図書館内で走りまわっているお子さんもいらっしゃいます。その場合には、職員が注意させていただくことがあります。もちろん、ちいさなお子さんも図書館の大切な利用者です。

一方、図書館で静かに読書をしたい人もたくさんいらっしゃいます。「子どもの声がうるさい。注意が足りない」というおしかりの言葉をよく受けます。

どなたでも気持ちよく利用していただくために、より多くの人たちに愛される図書館を目指していきますので、ご協力をお願いします。

3月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 休館	2 休館	3 休館	4 休館	5 休館	6
7	8 休館	9	10	11	12	13
14	15 休館	16	17	18	19 ◎	20 ■
21	22	23 休館	24	25	26	27 ☆
28	29 休館	30	31 休館			

◎ちいさいこのためのおはなし会

【対象】乳幼児

【時間】1回目 11時～

2回目 11時30分～

※整理券を相談窓口で配布します

☆おはなし会

【対象】幼児～小学校低学年

【時間】11時～

■ストーリーテリングのおはなし会

【対象】幼児～

【時間】11時～

